

1. 養殖管理情報の提供等の技術指導

生産安定・向上を目指し養殖施設の適正配置の指導、育苗期のノリ芽健全度調査、生育状況の情報提供を実施しています。

- ・今年度は9月に入っても厳しい残暑が続いたため、陸上採苗開始日を例年より5日程度遅い9月27日頃に遅らせました。採苗開始直後の9月29日に台風17号が接近しましたが、採苗施設を安全な場所に避難するなどの対策を施し被害を回避出来ました。台風通過後、陸上採苗を再開するとともに漁場への網の張り込みを開始し育苗がスタートしました。
- ・育苗開始後は潮位の高い状態が続き張り込み水位の管理に苦心しましたが 10月下旬までにほぼ予定枚数の良質の種網を確保することができました。
- ・生産に向けた網の展開は伸長状況が上向いてきた11月始め頃から行なわれ11月10日頃から徐々に摘採を開始しました。強風による芽の脱落等があり伸長状況はあまりよくありませんでしたが病害の蔓延や色調低下は無く、年内生産はほぼ順調に経過しました。
- ・年明け以降は植物プランクトンの増加によって栄養塩が減少し色調がやや浅い状況が続いています。

2. 場所別のノリ生長量調査

場所別のノリ生長量・漁場環境調査を継続し、ノリ養殖管理技術の向上に向けた基礎データを収集・整理しています。

- ・昨年に続いてベタ流し漁場の底層にも自動観測機器を設置し表層と底層の水温差に着目しながら生育状況を調査しました（詳細なデータは現在解析中）。
- ・ベタ流し漁場の表・底層の水温差は11月中旬までは1℃未満でしたが11月終わりに底層水温が急上昇し水温差も3℃程度に拡大しました（図1）。その影響で沖の支柱柵漁場の水温変動も拡大し縮れた葉体が増えました。水温較差は12月6日に吹いた強風後縮小し、生育状況も好転しました。

H20～22年の調査で得られた主な知見

- 三番瀬漁場の水温は沖合底層での高温水の有無によって異なる変動パターンを示す
- 両パターン間では生育状況に大きな差異を生じる

水温17℃以下で養殖が本格化する時期(11月)

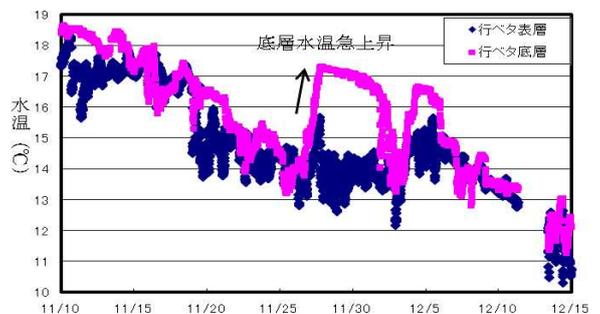
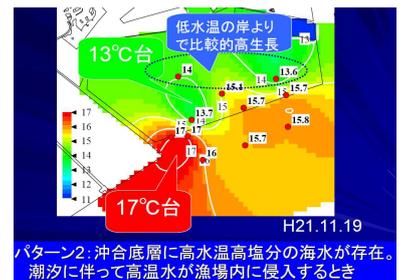
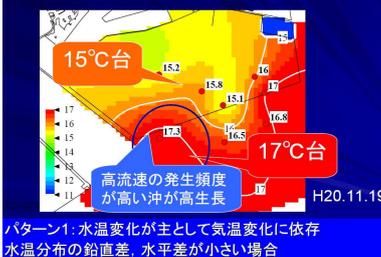


図1 行徳ベタ表層・底層の水温経過

年内の生産状況は概ね順調